

佐賀県立博物館・美術館報

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24) 3947

No.73



エヒメアヤメ

国指定天然記念物

エヒメアヤメ Iris rossii Baker

アヤメ科、アヤメ属の植物で、別名タレユエゾウ、イツスンシアヤメともいう。

エヒメアヤメの自生地は佐賀市久保泉町川久保の帶隈山南麓にあって、1925年（大正14年）に自生南限地帯として、国の天然記念物に指定されている。

エヒメアヤメはコナラ、クリなどの疎林に、スキ、チガヤなどの草本類と混生している。多年草で、葉は直立し、長さ15~20cm、幅1cmと小さく、花茎は高さ10cm前後で、4月中旬ごろ青紫色の花をつける。

1918年（大正7年）に神埼町日の隈山で発見された頃は、鳥栖市麓から小城町清水付近の丘陵地に自生が見られたが、しだいに減少し、現在は絶滅の危機にある、手厚い保護が望まれる。

目 次	○エヒメアヤメ（国指定天然記念物）	表紙
	○植物標本の寄贈と保存処理について（記録）	2 P~3 P
	○資料紹介「紙本墨書大般若経」	4 P~5 P
	○昭和61年度展覧会ご案内	6 P~7 P
	○博物館・美術館日誌・館内販売図録案内・人事異動	8 P

—植物標本の寄贈と保存処理について(記録)—

佐賀県立博物館では、佐賀植物友の会(須古将宏会長)から植物腊葉(さくようーおしば)18,000点の寄贈と博物館資料としての標本作製業への協力に対する感謝状の贈呈式を3月17日に当館応接室で行った。

寄贈された植物腊葉は大正年間からの採集品で、主に佐賀県内で採集された植物2,000種におよぶものである。そこで当館では、昭和59年度と60年度の二か年において、この植物腊葉を植物友の会に委託して、真空ビニール・コーティングによる標本化の作業を実施した。感謝状の贈呈式後、須古会長と館長との懇談を行った。その内容は次のとおりである。

館長： このたびは、植物腊葉のご寄贈をいただき有難うございました。また、標本整理作業には、植物友の会の会員の方のご協力を頂き、併せてお礼を申し上げます。

会長： この植物標本は、昭和56年佐賀植物友の会刊行の「佐賀県植物目録」の基礎とした標本で、それぞれの分野の専門学者の同定を受けた、学術的価値の極めて高いものですが、膨大な数量のため、個人で長く保管することは困難であり、将来散逸してしまうことが心配されていました。寄託場所として最適と思った博物館も美術館建設前で、時期が悪い時でした。

国立の科学博物館や東京大学、京都大学等に寄贈を申込めば喜んで受容れられることは判っていましたが、貴重な佐賀県の学術的文化財を県外に流出させることは忍び難いことでした。

美術館ができる機会に改めて受容れの態勢が作られ、本県のため、この上なく喜ばしいことだと思っています。

館長： 植物分類学では標本が重要な役割をもっていると思われますが、

会長： そのとおりです。植物分類学は標本が基礎資料となります。種を同定するためには、標本がどうしても必要になります。

館長： 資料の寄贈に伴って、博物館では色々と考えてみました。それは一つに標本の保存の方法をどうするかということでした。

植物標本の活用という立場から今までの方法とは異なり、真空パックをする方法に決定しました。この方法は今までの標本作製と大きちがいはありませんが、作業の最後の工程で、台紙に貼り付けた標本を薄いビニールで挟みこみ、中の空気を押し出して、そのビニールコートの縁を、約90°C

前後の熱で短時間(約1~2秒)で台紙に焼き付ける方法です。ビニール・コーティングをする前に、標本 자체は燻蒸庫で殺菌殺虫をしております。

この方法だと、展示室でも標本を全く傷めずに自由に手に取ることができます。

会長： 展示する場合にはそれが最良の方法と思われます。しかし、研究者が標本の裏側を見たい時には、不便のようですが、

館長： 研究用には、従来のパラフィン紙を使用した標本作製も行っていましたし、葉などは必ず裏面がわかるように標本をつくっています。また台紙を使ったものでは必要な場合はビニールを剥ぎ取ることも可能です。ビニール・コーティングの機械一式を館内に備えていますので、いつでも再度ビニール・コーティングすることができます。

会長： 博物館で植物標本の整理に非常に熱意を示して頂いたことはほんとに有難いことです。

これが機縁になって他の自然科学分野の資料の収集にも力を注いでいただき、研修分野を加え、動・植物園やプラネタリウム等も併置した自然科学博物館が独立する母体になっていただけたら素晴らしいと思っています。

館長： ところで、植物採集や標本製作を中心になって指導された顧問の馬場龍義先生は、近頃いかがでしょうか。

会長： 先生は現在病気治療中であります。これまでの経過についてはそのつどお知らせしています。先生も大変よろこんでおられました。先生は昭和42年に最初の脳卒中で倒れられましたが、奇蹟的に回復され、半身不自由な体でお山野を歩き標本の整理や佐賀県植物目録の執筆を続けられたのです。

館長： 植物腊葉はダンボール箱60箱に保管され、中型トラック1台分ありました。自宅の二階の一部屋が標本の保管場所として使用されており、学芸員が標本を頂きに行きました、「これで子供部屋が取れます」と家族の方が話されたと聞いています。

会長： 馬場先生は植物標本を作るために、生きてこられたような方です。ほんとうは、標本一点一点に解説を加えて整理されたかったのです。

館長： このたび、寄贈していただきました約18,000点の植物は、佐賀県内で採集されたものが主ですね。全く姿を消した植物もありますか。

会長： 県内で採集された標本が大部分を占めていますが、参考資料として県外で採集された植物も一部あります。

姿を消した植物ですが、その種の数は少ないのですが、10数種類程度は全く姿を消したものもあります。佐賀県が南限や北限という植物は姿を消

している例が多いようです。虹の松原のウンランは昭和41年に絶滅しました。カンランやクロカミラン等ラン科の植物に絶滅に瀕しているものが少なくありません。天然記念物のエヒメアヤメも絶滅寸前です。このような状況は、観賞の対象として業者やマニアによって根こそぎ採集されていることに最大の原因があります。

野や山には見られなくなってしまった花や草が、園芸店や個人の家の庭先に生えているという現象が現れています。人為的な消滅と自然環境の変化による消滅とがあるわけですが、人為的な消滅は人々の注意によって防ぐことのできるものです。人為的消滅は避けたいものですね。

館長： そういう意味では、昭和62年5月に佐賀県で実施されます全国植樹祭は郷土の緑の保全や、日本列島の自然環境保護意識の向上のための良い機会でもあるわけですね。

会長： 林務行政の担当部局では、自然の植物のうち特に大切なものを指定して保護の拡大を考えております。保護策としては良い方法だと思います。しかし、指定されることによってその植物の存在が広く知られ、このことがその植物の採集を促すという悪い結果も一部に生じているようです。

植物は鳥や昆虫と異なり、生息の場から逃げることをいたしません。めずらしい植物は簡単に採集できるわけです。七山村の樺原湿原のサギソウ等は典型的な例の一つではないかと思います。

佐賀植物友の会の例会等で調査に出かける時も、採集しないように心がけています。もし百人の人が一度に採集しますと、種そのものが消滅する結果ともなります。写真やスケッチによる記録にとどめ、採集は避けるべきでしょう。

館長： 佐賀県内の植生の調査はできていますか。

会長： 現在、環境庁が全国の植生調査を実施しています。これは全県土の植生を5万分の1の地図に記入して記録しています。また特定の植物群落調査も実施しており、その対象区域は65か所に及んでおります。各々の山で、木の種類を比率であらわされるようになりました。

このような各種の調査に、佐賀植物友の会もできる限り協力をしています。

館長： 植物友の会の会員は現在何人ですか。

会長： 県内に広く、小学生からお年よりまで約300人はいます。男女は同じ位ですが、例会参加の男女比は4分6分くらいです。最近では若い世代の参加が減り、高校生の植物同好者グループも少なくなきました。

館長： 夏休みなどに、小・中学生が植物標本の作製を行っていますが、その後の活用はどのようにして

いるのでしょうか。

会長： 夏休みが終れば各地で理科作品展が実施されますが、中には丹念に作成された立派な標本も多くあります。理科振興会の先生方の協力が得られて、博物館や学校に保管されたらいいかがでしょう。自分が作った標本が博物館や学校に保管されるならば、喜んで寄贈されるのではないかと思いますが。

また、個人で大切に保管され、小中学校時代の研究をそのまま成人にならなくても続けられる人もいます。

館長： 佐賀県の植生の特色をお聞かせください。

会長： 田や畑は人工的ですね。佐賀県は平坦地分布が主体をなします。

また、佐賀県は植林率が高く、このことは人工林が多いということになります。このことは自然林が少ないという現象をその一方の側でもついているわけです。人の手を加えない自然の森や林が、他県に比較し少ないようですね。

館長： 国の方では、大いに植林を奨励していますが。

会長： 自然林が次第に減少しています。生態系に変化が出てきていますので注意をする必要があります。近年、テレビや新聞で山の崩壊という現象から、自然林の必要性が叫ばれるようになりました。

自然林と人工林の比率を考える時期が来たようです。『里山』や『鎮守の森』の保護も重要な要になりました。公園緑地の必要性も大きくなっています。緑化思想の向上が一段と強く叫ばれます。

館長： そのためにも、全国植樹祭は絶好の機会となるわけですね。今後共、先生方のご指導とご協力を切にお願い申しあげます。ありがとうございました。



資料紹介

紙本墨書大般若經 伊万里市大川町大川野宿2207

本件は、昭和59年夏、下平恒男氏（郷土史家、伊万里市在住）により発見され、その後御住職向泰則氏の御厚情により、調査の機会を得た。今回その中間報告を行う。

本件は、正平・応永・大永・天文・元文の各書写本、江戸版本3種の8種から成り、575巻が現存している。その他不明巻が25巻相当程度ある。概要は下表の通り。

年代	正平11 (1356)	応永18~24(1411~17)
品質	紙本墨書	紙本墨書
存数	1巻	483巻
譯	—	三蔵法師玄昇奉詔譯
表紙	綴 横(11.2)	綴24.2 横10.2
一紙	綴24.4 横39.4	綴24.3 横59.3
署	高20.8 幅18.1/10	高20.3 幅17.0/10
一開	17字 12行	17字 12行

(表1-1)

年代	大永7 (1527)	天文6~7 (1537~38)
品質	紙本墨書	紙本墨書
存数	7巻	61巻
譯	三蔵法師玄昇奉詔譯	三蔵法師玄昇奉詔譯
表紙	綴24.4 横10.0	綴24.2 横10.4
一紙	綴24.4 横149.7	綴24.4 横53.7
署	高20.4 幅17.1/10	高20.7 幅17.2/10
一開	17字 12行	17字 12行

(表1-2)

年代	元文4 (1739)	江戸時代
品質	紙本墨書	紙本木版刷
存数	20巻	1巻
譯	唐三蔵法師玄昇奉詔譯	三蔵法師玄昇奉詔譯
表紙	綴24.2 横10.0	綴26.7 横 9.4
一紙	綴24.0 横71.5	綴26.4 横39.6
署	なし	なし
一開	17字 12行	17字 10行

(表1-3)

年代	江戸時代	江戸時代
品質	紙本木版刷	紙本木版刷
存数	3巻	断巻
譯	—	—
表紙	綴 横(9.2)	綴 横(9.3)
一紙	綴25.6 横41.4	綴24.5 横42.3
署	なし	なし
一開	17字 10行	17字 10行

(法量はcm単位) (表1-4)

本件は、いずれも筆の楷書体で、12巻毎に経箱（桧製漆塗吉箱47口、杉製漆塗元文箱3口とも27.8×23.6×9.1cm）に分納されていた。しかし、10巻毎に鉄数の更新が記され、経箱も1~1~10より6~1~10までの60の整理番号銘をもち、以前は10巻毎に分納されていたと考えられる。経櫃は、経箱10口を入れたと思しき寛永14年銘のものが1口現存している。

さて、本件の略歴については、応永24年に千栗八幡宮（北茂安町白壁2415、神龜元年壬生春成による草創伝承）に施入され、その後大永5年に藤津郡志保田荘賀島村寶洲山莊嚴院（不詳）に再入、天文6年には法輪山妙泉寺（不明）に再奉納されている。さらに元文4年には肥陽草野荘大村郷無怨寺大明神（東松浦郡浜玉町にあったとする無怨知寺が明神化したものと考えられる）に移り、大正4年には本覚寺（天文・弘治年間1532~55~58頃の開山伝承、曹洞宗）に存在したようである。詳細は本件墨書表を表2に年代順に列記したので参照されたい。

以上、本件は室町時代の大般若経のはば完全な形を伝える遺例としてはばかりでなく、書写に要した期間や千栗八幡宮跡勤勒堂の造立時期、或いは中世以降消息を断つていた無怨寺の近世に於る存在をも伝える貴重な例である。

西暦	和暦	月・日	事項
724	神亀元		? (千栗八幡宮草創) →巻547
1356	正平11	5・20	信覚による書写 →巻257 (三根郡千栗八幡宮)
1411	応永18	12・2	歎之、平山寺において書写 →巻222・224・225
1415	応永22	4・18 7・27	信伝による書写 →巻10 信伝、伊佐早莊十王堂において書写 →巻32
1416	応永23	2・26 3・ 7・28 8・3 8・5 8・7 8・10 8・ 9・6 11・25 12・1 12・4 12・7 12・21 2・30 2・ 3・9	賢覚による書写 →巻410 成立による書写 →巻562 教運による書写 →巻120 宥宏による書写 →巻62 〃 →巻66 〃 →巻70 〃 →巻72 〃 →巻74 教運による書写 →巻114 理常による書写 →巻80 源照による書写 →巻170 〃 →巻169 〃 →巻168 〃 →巻167 〃 →巻166 〃 →巻178 元印による書写 →巻150 源照による書写 →巻180
1417	応永24	2・30 2・ 3・9	

	3・15	明室による書写? →卷100	1508	永正5	1・	? (~大永5) (藤津郡志保田莊賀鷗村 寶洲山莊嚴院)	箱1-8	
	3・20	源照による書写 →卷174	1525	大永5	8・27	大般若経を莊嚴院へ再入 願主全溪・檀那大村純前		
	3・20	高木郡裏比丘による書写 →卷187				卷408他		
	3・29	源照による書写 →卷177	1527	大永7	6・	ト也による書写 祖文による書写 →卷451		
	3・	成立による書写 →卷189				融虎による書写 →卷456		
	4・26	徳林叟園一、開經真言を書 →卷462				(法輪山妙泉寺)		
	4・	成立による書写 →卷122	1537	天文6	1・1	大般若經、妙泉寺へ		
	6・1	大般若經を千栗八幡へ施入 願主脉山・檀那善通				→卷147・171		
	6・1	毎日一部門を転読 →卷3他			2吉日	玉誉による書写 →卷136		
	6・13	清秀、願文等を書 →卷400			3・29	定舜による書写 →卷171		
	6・14	〃 →卷390・558			3下旬	有從による書写 →卷143他		
	6・15	〃 →卷315 他			4・9	〃 →卷149		
	6・16	〃 →卷410・506			4上旬	〃 →卷296他		
	6・27	〃 →卷377			5・3	〃 →卷193		
1428	応永35	七部祈禱 →卷20			5・	〃 →卷195他		
	正長元	大風雨。(~9・10) →卷497			5・	玉誉による書写 →卷273		
		筑後川の水白濁 →卷377			6・	有從による書写 →券198		
		6・7			1・1	〃 →卷213他		
		〃 →卷591			4・7	〃 →卷282		
		6・27			8・	〃 →卷212		
		弥勒堂の柱きしむ →卷377			9・27	〃 →卷219		
		6・			10・5	〃 →卷294		
		6月改元と知る →卷591			10・7	〃 →卷297		
		7・			11・	〃 →卷265		
		7月改元と知る →卷55 (註: 4・27改元)			1637	寛永14	5・	
		9・9				経櫃を修補 →経櫃 (肥陽草野莊大村郷		
1429	正長2	七部祈禱(~9・15) →卷32				無怨寺大明神)		
1430	永享2	2・				1739	元文4	5・
		弥勒堂造営に着手 →卷50				大般若經を無怨寺へ再奉納		
		2・12				→卷530		
		七部転読 →卷32・34				5吉辰	快遍による書写 →卷543他	
		2・19				6吉日	〃 →卷115	
		七部祈禱 →卷20				7下旬	解脱院による書写 →卷529	
		8・18				8上旬	重賢による書写 →卷524	
		杉倉満勝、千栗を出立 →卷270				8下旬	金剛院による書写 →卷528	
		9・11				8吉寅	廻州による書写 →卷525	
		杉倉満勝、箱崎を出立、京へ 向う →卷270				8吉辰	快盛による書写 →卷522	
		11・				8吉辰	高州による書写 →卷526	
		橋攸誠セメラル →卷270				8吉日	堪光による書写 →卷521	
		12・				8吉日	経箱を修補・再興 →箱6-3他	
		土一揆発生、筑前を焼き払う →卷270				12・	覚性による書写 →卷523	
1436	永享8	1・10					智伝による書写 →卷541	
1443	嘉吉3	2・18					(伊万里市大川町大川野 大円山本覚寺)	
		経箱を造立 →箱1-3他					経櫃を修補 →経櫃	
		3・8						
		経箱を千栗八幡へ施入 →箱1-6他						
		3・18						
		経箱を皆造 →箱1-1他						
		3・20						
		清秀、願文等を経箱に書 →箱3-3						
		3・23						
		転読 →箱3-2~3						
		3下旬						
		経箱20口施入 →箱4-6						
1486	文明18	5・3						
		雨降(~5・17) →卷117						
		5・5						
		大水(~5・16) →卷117						
		5・17						
		石疊6重浸水、大水害 →卷117						
1487	文明19	4・15						
		降雪 →卷338						

(?)は年号のみ記載

(表2)

昭和61年度 展覧会ご案内

61年

4月

5月

6月

新収蔵品展(Ⅰ)
4/1(火)～4/20日 佐賀県立美術館

新収蔵品展(Ⅱ)
5/1(木)～5/18日 佐賀県立美術館

第11回 九州藍箋会展
4/16(水)～4/20日 九州藍箋会
かな書道

舟一朝仕事展
5/1(木)～5/3(土)
影刻 舟一朝

第25回 日本現代工芸美術展
4/22(火)～4/27日 現代工芸美術家協会
陶磁器・染織・銀細工・人形など約120点

アジア現代美術展
5/10(土)～5/18日 佐賀県文化課
アジア13ヶ国及び日本の中堅作家の作品

**MOA美術館所蔵
浮世絵名作展**
5/24(土)～6/15(日) 佐賀新聞社
MOA美術館所蔵の浮世絵版画約240点

第69回 佐賀美術協会展
6/21(土)～6/29日 佐賀美術協会
佐賀美術協会会員・会友の作品を中心
に日本画・洋画・彫刻・工芸等の作品

10月

11月

12月

第5回 よみがれえ佐賀展
10/4(土)～10/12日 よみがれえ佐賀展実行委員会

第36回 佐賀県美術展
11/1(土)～11/9日 佐賀県文化課
日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真・デザイン
約450点

第7回 佐賀新聞学生書道展
12/3(水)～12/7日 佐賀新聞社
県内の児童・生徒を対象にした書作品

農協共済小中学生

第11回 交通安全ポスター展
第22回 書道展

10/15(水)～10/19日 佐賀県農協共済連
交通安全ポスター・書道入選作品400点

第10回 佐賀県高等学校芸術祭
美術・書道展 11/15(土)～11/24(日) 佐賀県文化課
県内高校生の作品、美術約300点、書道約
200点

第28回 佐賀大学教育学部美術・工芸科
総合展 12/16(火)～12/21(日) 佐賀大学教育学部
日本画・洋画・デザイン・彫塑・染織・書画・金工・木工

第27回 学童美術展
11/26(水)～11/30日 佐賀県造形教育研究会
県内生徒の絵画、デザイン、クロッキーの
特選作800点

会 場	第1期常設展	第2期常設展	第3期常設展	内 容	観 覧 料		
博 物 館	中 展	4/1(火)～6/15日	6/19(木)～10/19日	佐賀県の地質や自然・先史時代から近代にいたる歴史と文化について 自然・科学・考古・歴史・美術工芸 民俗の各部門について系統的に資料 を展覧。	大人 200 (150) 大・高生150 (100) 中・小生 70 (50) ()内は 20名以上の 団体。		
	大 展						
	1 号						
美 術 館	2 号		6/19(木)～9/15日				
	3 号						
	1 号	4/1(火)～6/15日	6/19(木)～10/19日	郷土出身作家の彫塑・陶磁・染織・ 金工などの代表的工芸品をはじめ、 百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助、 小代為重、高木背水などの近代洋画 を紹介。	大人 200 (150) 大・高生150 (100) 中・小生 70 (50) ()内は 20名以上の 団体。		
	2 号	4/1(火)～5/18日	7/3(木)～10/19日				
	3 号		7/3(木)～9/15日				
			11/27(木)～3/31(火)				
			11/27(木)～3/31(火)				
			11/27(木)～3/8(日)				

佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

7月

8月

9月

第11回 書作家協会展
7/2水～7/6日 佐賀県書作家協会
県下の書作家协会会员及び一般公募の書道展

第3回 佐賀県写真協会展
7/9水～7/13日 佐賀県写真協会
佐賀県写真协会会员による写真約200点

第7回 二科会佐賀支部展
7/16水～7/20日 二科会佐賀支部
二科会佐賀支部会员による絵画・デザイン・写真

第17回 独立C・S展
7/23水～7/27日 独立C・S
独立美術協会佐賀支部員の平面作品約40点

第35回 緑光会展
7/30水～8/3日 緑光会
緑光会会员の油彩を中心にした作品約80点及び
緑光会親子スケッチ会優秀作品約100点

第14回 七夕書道展
8/6水～8/10日 佐賀県書道教育連盟
幼年・小学校・中学校及び高校・一般の部
の書作品 約800点

第18回 佐賀県勤労者美術展
9/3水～9/7日 佐賀県労政訓練課
絵画・写真・書・工芸 約200点

第7回 九州新工芸展
9/10水～9/15日 九州新工芸家連盟
九州各県より出品された工芸作品約120点

第36回 佐賀県児童生徒理科作品展
9/19金～9/26日 佐賀県理科教振興会
県下の小・中・高校の児童生徒の理科優秀作品

北島浅一・御厨純一展
9/27土～10/19日 佐賀県立美術館

郷土作家シリーズ。大正から昭和にかけて活躍。第一美術協会、文展、帝展に出品。油絵 約90点。

62年

1月

2月

3月

第9回 さが行動展
1/13火～1/18日 さが行動美術協会
絵画・彫刻

佐賀大学書道部OB展
1/21水～1/25日 佐賀大学書道部
書 約80点

第25回 高等学校デッサン大会
2/3木 佐賀県高等学校美術連盟

新収蔵品展
3/12木～3/31火 佐賀県立美術館

佐賀大学教育学部美術・工芸科卒業制作展
2/18水～2/22日 佐賀大学教育学部
美術・工芸 約70点

第16回 九州グラフィックデザイン展
2/25水～3/1日 九州グラフィックデザイン協会
九州グラフィックデザイン協会会員等の作品150点

全日写連佐賀県本部展
3/12木～3/15日 全日本写真連盟佐賀県本部
写真 約150点

第9回 二紀佐賀グループ展
3/25水～3/29日 二紀佐賀グループ
油彩 約40点

古川松根展

1/23金～3/1日

佐賀県立博物館

幕末の佐賀藩主鍋島直正の近習をつとめた逸材古川松根を和歌・書画をはじめとする遺品を通して紹介。

は博物館

は美術館。ただし、佐賀県美術展・佐賀県高等学校芸術祭は両館にて開催。

※ 利用案内

- 開館時間 9時～16時30分（入館は16時まで）
- 休館日 常設展、企画展期間中は月曜日（連休のときはその翌日）
12月28日から1月4日まで。
- 成人の日、こどもの日の常設展は無料です。
- 小学校、中学校、高校などの教育活動として観覧する場合の常設展は無料です。
- 都合により、展覧会の期日、時間などが一部変更になることがあります。
- 所在地 佐賀市城内1-15-23 TEL 0952-24-3947



博物館・美術館日誌（1986）

1月29日	第8回二紀佐賀グループ展（2月2日迄）	2月26日	第15回九州グラフィックデザイン展（3月2日迄）
2月3日	高等学校デッサンコンクール	3月1日	博物館・美術館協議会
2月5日	第31回書初書道展（2月9日迄）	3月8日	佐賀県現代美術展（3月30日迄）
2月8日	古代史発掘展開場式（3月2日迄）	3月15日	博物館第3期常設展「佐賀県の歴史と文化展」（3月30日迄）
	古代史発掘展講演会 「近年発見の重要な遺物と九州の古代文化」 講師・森貞次郎博士（九州産業大学教授）	3月17日	植物友の会への感謝状贈呈
2月9日		4月14日	昭和61年度展覧会案内普及
2月19日	佐賀大学教育学部美術工芸科卒業制作展（2月23日迄）	4月29日	天皇誕生日、天皇陛下御在位60年を記念し、博物館・美術館常設展無料
2月23日	古代史発掘展講演会 I 「菜畑遺跡と稻作開始期の諸問題」 講師・中島直幸氏（唐津市教育委員会） II 「安永田銅鐸鋳型と弥生人のまつり」 講師・藤瀬祐博氏（鳥栖市教育委員会）	5月5日	こどもの日をお祝いして、博物館・美術館常設展無料

館内販売図録案内

図録名	単価	図録名	単価
古代史発掘	1,900円	山口猛彦	1,000円
壳茶翁	1,200円	近代の日本画	1,600円
鏡玉剣	1,500円	近代・九州の洋画家たち	1,500円
岡田三郎助	1,700円	佐賀県立博物館	300円
古賀忠雄	1,300円	肥前の中世美術	1,800円
三根霞郷	700円	佐賀県方言語典	350円

人事異動

○転入（昭和61年4月1日付）

副館長 高島 忠平（文化課参事より）
 総務課長 溝口 洋（県水産試験場庶務課長より）
 主事 中島 恭助（教職員課より）
 ○転出
 総務課長 池田 清八（唐津県税事務所次長へ）
 世務管理係長 秀島 智津（消費生活センター所長補佐へ）
 主事 山田 洋子（県立盲学校へ）

○昇任

企画普及係長 田中 裕（学芸員補より）
 主査 中村美沙子（主事より）

博物館・美術館報 第73号
発行年月日 昭和61年6月1日
編集 大塚正道
発行 佐賀市城内1丁目15番23号
佐賀県立博物館
佐賀県立美術館
印刷 大同印刷